第３次南アルプス市総合計画
施策マネジメントシート

作成日：令和8年 7月16日
更新日：令和8年 8月17日

政策No.	3	政策名	「こどもまんなか、夢や希望が描けるまち」の実現	施策主管課	こども家庭センター
施策No.	16	施策名	母子保健の充実	施策主管課長名	志村 直紀
施策関連課名					

１ 施策の目的と指標

意図（この施策によって何をどう変えるのか）
・すべての妊産婦が安心して妊娠や出産ができる環境が整っている。 ・すべての子育て家庭が安心して育児ができ、こどもが健やかに育つ環境が整っている。

	成果指標（意図の達成度を表す指標）	単位
1	「南アルプス市には、安心して妊娠・出産・育児ができる環境がある」と思う市民の評価	―
2	子育ては楽しいと感じる親の割合	%
3	ゆったりとした気分でこどもと過ごせる時間があると感じる保護者の割合	%

成果指標の測定方法 どのように実績値を把握するか		
	1	市民アンケートにおいてWeii-being指標を測定
	2	市乳幼児健診（4ヶ月、10ヶ月、1.6歳、2歳、3歳児）における問診結果で把握。 （肯定的回答をした母の割合÷各健診受診者×100の平均）
	3	市乳幼児健診（4ヶ月、10ヶ月、1.6歳、2歳、3歳児）における問診結果で把握。 （肯定的回答をした母の割合÷各健診受診者×100の平均）

２ 指標等の推移

		指標名	単位	数値区分	前期基本計画 R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	後期基本計画 R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度
成果指標	1	「南アルプス市には、安心して妊娠・出産・育児ができる環境がある」と思う市民の評価	―	目標値	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5
				実績値	3.4									
	2	子育ては楽しいと感じる親の割合	%	目標値	89.0	89.0	89.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
				実績値	87.0									
	3	ゆったりとした気分でこどもと過ごせる時間があると感じる保護者の割合	%	目標値	80.0	80.5	81.0	81.5	82.0	82.5	83.0	83.5	84.0	84.0
				実績値	81.5									
				目標値										
				実績値										

３ 施策の役割分担

市民の役割	事業者の役割
• 母子ともに健康管理を行うとともに、定期健診を受診します。 • 行政や関係機関の情報を確認し、必要に応じて相談などを活用します。 • 出産・子育て経験者とのつながりを築いたり、子育てに関するSNSを通じた情報収集や仲間づくりを行います。 • 地域において子育て世代が気軽につながることのできる場づくりを推進します。	• 関係機関と連携しながら、母子保健に関する情報提供や相談及び支援などを行います。 • 民間事業者やNPOなどによる母子保健にかかるサービスを充実します。

４ 施策の現状と課題および状況変化・住民意見等

※現状と課題および基本計画策定時点からの状況変化・住民意見等を記載しています。

施策の現状と課題	施策を取り巻く状況変化 関係者からの意見・要望
・核家族化、地域のつながりが希薄な中で、孤立感や不安感を抱く妊産婦、子育て家庭がある。虐待や自死を未然に防ぐため、伴走型支援体制づくりのため、多職種の人材確保、育成が必要。また地域資源の確保・拡充、関係機関との連携強化が必要。	少子化核家族化等により、妊産婦や子育て家庭の孤立化により、育児不安や児童虐待予防、発達支援など多様な支援が必要。保護者からは相談体制や産後ケアの充実、経済的負担の軽減を求める声が寄せられている。また、関係機関からは途切れのない支援体制の強化や専門職の確保・育成が求められている。

５ 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分		7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
関連事業本数		15	15			
関連事業予算額（単位：千円）		185,214	198,228			
（予算額の内訳）	国庫支出金	71,924	74,448			
	県支出金	6,662	6,221			
	地方債	0	0			
	その他	919	19,919			
	一般財源	105,709	97,640			

6 施策の成果水準とその背景

目標達成度 （目標値との比較）	背景と要因等（根拠となる実績値・判断基準等）
□ 目標より高い実績値だった ☑ 目標どおりの実績値だった □ 目標より低い実績値だった	・成果指標①は目標値と同水準（3.4）、成果指標③は目標値を上回った（81.5%）。一方、成果指標②は目標値を下回った（87.0%）。 子育てを楽しいと感じる保護者の割合は目標に達しておらず、育児負担感や不安への支援が課題であるものの、妊娠・出産・育児環境に対する評価や保護者のゆとり感は一定水準を維持しているので目標どおりの実績値とした。
時系列比較 （どのように変化してきたか）	背景と要因等（根拠となる実績値・判断基準等）
□ 成果がかなり向上した ☑ 成果は変わらない（横ばい状態） □ 成果がかなり低下した	・妊娠期から子育て期までの相談支援や訪問支援、産後ケア事業などの母子保健事業の実施により、安心して妊娠・出産・育児ができる環境に対する評価（3.4）や保護者のゆとり感（81.5%）は一定水準を維持している。一方で、子育て家庭を取り巻く環境の変化や育児負担感などにより、成果の大幅な向上には至っていない。
他団体比較 （近隣他市、県・国との比較など）	背景と要因等（根拠となる実績値・判断基準等）
□ かなり高い成果水準である ☑ ほぼ同水準である □ かなり低い成果水準である	全国比較が可能な指標は「ゆったりとした気分でこどもと過ごせる時間があると感じる保護者の割合」のみであり、令和4年度79.7%から令和6年度81.5%へ上昇し、全国値(82.0%)と概ね同水準で推移している。また、「子育ては楽しいと感じる親の割合」は87%前後で推移しており全体としてはほぼ同水準の成果が得られている。

7 施策の方向性

- 全ての妊婦や子育て家庭に寄り添いながら相談に応じ、関係機関との情報共有を図ります。
- 関係機関とともに、未来のパパママが交流できる機会の確保により仲間づくりを促すことで安心して出産・育児が行えるよう、必要な支援体制の充実を図ります。

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度の取組（事務事業）状況・今後の課題・今後の方針

	重点事業	今年度の取り組み状況	今後の課題	今後の方針
1	一人一人に寄り添った伴走型支援の充実	・妊娠期から出産、子育て期まで途切れのない相談支援を継続して実施する。 ・関係機関と連携し、産後ケアや育児支援サービスの利用促進に取り組む。 ・おむつ代支給事業により経済的負担を軽減し、安心して子育てできる環境づくりを進める。 ・妊娠期から産後までの移動支援策について検討を進める。	・子育て家庭の孤立化や育児不安の増加、多様化する支援ニーズへの対応。 ・専門職の確保・育成と関係機関との連携強化。 ・物価高騰による子育て世帯の負担への対応。 ・分娩施設がないことによる通院・出産時の移動負担への対応。	・多職種連携や産後ケアの充実、専門職の資質向上により支援体制を強化する。 ・子育て世帯のニーズを踏まえ、乳児子育て応援事業の導入を進め、支援内容の充実と負担軽減を図る。 ・妊産婦通院等交通費助成事業（妊婦タクシー制度）の導入を進め、安心して通院・出産できる環境整備を進める。
2	関係機関との協働による教室開催や集いの場等の地域資源の創設及び拡充	・NPO法人等へ委託し産後ヘルパー派遣事業を実施するとともに、ヘルパー養成研修を通じて地域の支援人材の育成を進めている。	・子育て家庭の孤立化や育児不安の増加、多様化する支援ニーズへの対応。 ・専門職の確保・育成と関係機関との連携強化。	・こども家庭センターを中心に途切れのない伴走型支援を推進する。 ・多職種連携や産後ケアの充実により支援体制を強化する。
3	母子保健と児童福祉の相談及び連携支援体制の充実	情報共有やケース会議、合同研修を実施し、一体的な支援体制を充実させ、支援の抜け漏れ防止と支援の質の向上に取り組む。	・記録システムや様式が異なることから情報共有に課題があり、相互の業務理解や連携手法のさらなる充実が必要である。	情報共有の仕組みづくりや合同研修を継続し、母子保健と児童福祉の一体的な支援体制の強化を図ることで、さらなる支援の質の向上を図る。
4	医療機関を含む関係機関との連携強化	・医療機関や関係機関と連携し、支援が必要な妊産婦や家庭の情報共有及び支援調整を実施する。特定妊婦や要保護児童については、要保護児童対策地域協議会において支援方針を検討する。 ・令和9年度からの5歳児健診実施に向け、医療・保健・保育・教育関係機関との協議を進めている。	・支援を必要とする家庭を早期に把握し、迅速な支援につなげるため、医療機関を含む関係機関とのさらなる情報共有と連携強化が必要。 ・就学前の発達相談の充実と、必要な支援につなぐ体制整備。	・医療機関や関係機関との情報共有及び連携体制を強化し、支援が必要な家庭への途切れのない支援を推進する。 ・令和9年度からの5歳児健診実施に向けて検討を進め、相談機会の充実と支援体制の強化を図る。